

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.2

北条南中学校

河野氏の歴史をたどる

私たちの住む地域は昔、河野氏が活躍したと聞き、興味をもっていました。調べると、この地域では歴史上いろいろな人物が登場し、活躍していることが分かってきました。そしてもっと深く知りたいと思い、調査しました。

河野の由来



阪本楓青さん (3年)

河野氏は風早郡河野郷(旧北条市)を拠点として、平安末期から戦国末期にかけて伊予一円に勢力を誇った豪族です。

河野の名の由来は諸説ありますが、ある時、神のお告げで「可・水・予・里」という四文字を告げられ、その四文字を合わせて「河野」となったという伝説があるそうです。また一説では、元々あった加波乃(かはの)が二字記名になり、河野になったともいわれています。



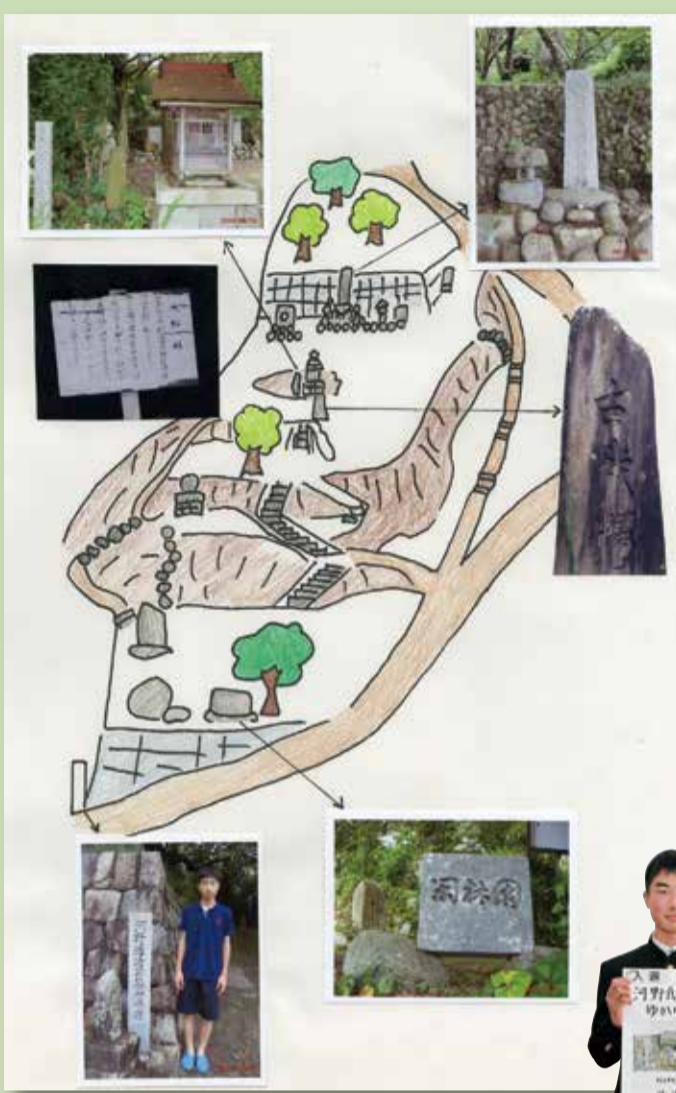
源平合戦で活躍 河野通信



大森華笑さん (2年)

源平合戦で源頼朝側につき、高縄半島でゲリラ戦を展開。進入していた平家方の兵をたおしました。1185年2月、源義経が平家をたおすため四国へ

河野一族、一遍上人が供養 山の神古戦場(小川)市指定記念物(史跡)を調べました



伊藤誠一郎さん (平成27年度卒業)

平家をたおすように源頼朝にたのまれた河野通清(通信の父)が敵である備後の国の奴可入道西寂の兵と戦ったのが、高縄山の麓だといわれています。戦いにやぶれた通清は、この山の神である大松の木の下で腹を切って死んだとされ、その言い伝えからこの辺りは「山の神古戦場」とよばれています。

通清が戦死して100年後、孫である一遍上人がこの地を訪れて河野一族の供養をしたそうです。その後、江戸時代にこの供養塔が建てられました。

下つてくると、通信は軍を率いて志度合戦などで義経とともに平家と戦いました。戦後は鎌倉幕府の御家人となり強い権限をあたえられました。1221年の承久の乱では反幕府側に立ち敗北すると、通信(通信の子)と共に領地へ戻り高縄山城にこもって反抗を続けました。翌年に幕府方に攻められ通信は信濃で斬られ、その後通信は、現在の岩手県にある国見山極楽寺で死去したといわれています。

元寇で活躍し河野氏再興 河野通有の奮闘



丹下このみさん (2年)

(八幡愚童記から)

「通有は兵船二艘を率いてモンゴルの軍に立ち向かった。四、五人射られ、伯父(通時)に頼んだが手に負えなかった。自分も石弓に強く打たれ、弓も引けない状態になった。しかし、片手に太刀を持ち、帆柱を切ってモンゴルの船に橋をかけ、思い切って乗り移った。さんざん切りまわって、多くの敵の首をとった。その中の大將軍と思われる人の首をとり、前にしめつけて帰った。」と書かれています。元寇での通有の活躍をきっかけに河野氏は勢力を回復しました。

ふるさとの歴史を伝えていきたい

私たちのふるさとは深い歴史のあるとても魅力的なところだと思います。多くの人にこのことを知ってもらい、この地域をもっと好きになってもらいたいと思いました。



この企画では、市内の市立中学校の生徒が順番に、学校生活などで学んだ地域の歴史や文化・偉人などを紹介していきます。

北条地域の河野氏ゆかりの施設など



鹿島の權練り
河野水軍出陣時の戦勝祈願や凱旋時の祝勝奉賛が神事となったといわれる。鹿島神社の春まつりや秋の大祭で奉納される。



善応寺
河野氏の氏寺。1335年(建武2年)河野通盛が京都の東福寺を模して居館を改築し、善応寺と称した。県指定文化財の古文書や仏像などが多数ある。



北条ふるさと館
文化の森内にあり、北条地域で発掘された土器や石器・鉄器などを展示。そして河野氏の台頭から盛衰までも分かりやすく解説している。

先人と文化の読み物教材

語り継ぎたいふるさと 松山百話 I・II・III



I巻「凧として立つ」に収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができま